

沖縄 FW 1 日目（2011 年 10 月 8 日）

「沖縄初日、ボランティア作業、沖縄チャンプルー、嘉数高台。」

文責 高野 宏

☆沖縄での活動がついに始まった。

朝。ゆいレール奥野山駅すぐのセルラースタジアムに到着。ここで開会式も開かれる予定だ。もうたくさんの人が準備でいたりきたりしている。



9時から参加者へのおみやげの詰め込み作業を手伝う。3日間で5000個のおみやげを完成するのが目標だと聞きかされ、一同おののくがすぐさま作業に入る。私たちの他には老若男女さまざまな人たちが来ていた。沖縄のひとたちと雑談を交わしながら、なごやかに作業は進む。

（写真：冊子を織り込む高野と伊藤先生と地元沖縄の方）



出来たおみやげを運ぶのがなかなか大変で、この仕事を効率よくまわしていくのがさらに困難であった。そんな中、伊藤ゼミ一同は積極的に仕事をこなし、なんとかウチナーチュ大会開催に向けて貢献できたと思う。そして、3時間で1500個のおみやげが完成！

（写真：1500 個のおみやげと一緒に）

残ったみんな、あとは頼んだ！

沖縄 FW 1 日目 (2011 年 10 月 8 日)

☆私たちはスタジアムを後にし、昼食にありつくため国際通りの市場内食堂へ。



(左写真：食堂にて注文中。)

頼んだ品はナーベラーチャンプルー、沖縄そば、島らっきょ、豆腐チャンプルー、など。価格はそれぞれで 700 円程度。

(右下写真：ナーベラーチャンプルー定食)



(左上写真：食堂のメニュー表)

ナーベラーチャンプルーは沖縄では人気が二分するらしい。(味の無いメロンと評する人も) でも、おいしかった。



☆さて、午後からはタクシーに乗って佐喜眞美術館 (HP: <http://sakima.jp/>) へ

(左写真：佐喜眞美術館の外観)

ここには「生と死」「苦悩と救済」「人間と戦争」をテーマとしたコレクションが展示されている (HP より引用)

大きな空間に大きな赤い絵。否応なく沖縄戦への想起を喚起させられる。その「沖縄戦の図」は原爆投下後の広島を見た丸木夫妻が描いたもの。広いキャンバスに沖縄戦の悲劇の現場が詰め込まれている。その迫力は凄まじかったが、見る人を吸い込むような雰囲気もある。というのはこの絵のほとんどの人物には目がないのである。この目を埋めるのは目の前の自分。人々がどんな思いで沖縄戦を生き、死に、生き残ったか。私たちには想像力が必要とされる。

最後に、美術館のすぐ隣にある普天間基地に関連し、沖縄基地問題の話を伺った。基地のすぐ隣で聞くその話は不思議な臨場感を私たちに与えていた。話の内容は主に実際にその方が経験してきた基地闘争の歴史についてであった。時折、怒りの感情も交えながら、それでも最後までやさしい眼差しでお話して下さった。普段ニュースで見る大局的な話題としての基地闘争と、1 人の人生の物語としての基地闘争とは、全く異なる味がした。つまり人のにおい、私が当時の場面にいるかのような錯覚をそれはもたらした。さらに言えば、私は常にそれを想像しながら、基地闘争について勉強していく必要があるのだと思うようになった。



写真：佐喜眞美術館のみなさんと（沖大国生を外で待たせている）

☆ 佐喜眞美術館の後、この先ずっとお世話になることになる沖縄国際大学の学生たちが車で迎えにきてくれる。嘉数高台公園へ行く。

★今回の平和学習は沖縄国際大学・澤田ゼミの学生たちの全面的な協力を得て行われました。各地の戦跡や基地を巡りながら、オリジナルの資料を使って非常に分かりやすい説明をしていただきました。

●宜野湾近くに位置する嘉数高台は第一防衛戦の中核陣地であった。この嘉数高台は米軍にとって沖縄上陸戦後初の日本軍の激しい抵抗を受けた地である。
(沖国大生配布資料より引用)

沖縄戦で激戦地となったその地で沖縄国際大学院生の喜久里瑛さん、同大学生の山里晶子上原千穂さん、丁寧な解説を聞きながら、激戦地となった戦闘跡地を周っていく。雨が降ってきた。



(左上写真：壁に残った戦闘時の実際の弾痕、右上写真：奥左が「京都の塔」、奥右が「嘉数の塔」)

最後はトーチカに入ってみる。どんな気持ちでここから迫りくる米兵を待っていたのだろうか...



沖縄 FW 1 日目 (2011 年 10 月 8 日)

(写真：トーチカ内の穴からみた風景)

(写真：外からみたトーチカ)

- トーチカ (ロシア語) とは日本語で特火点の意味で、軍事用語で表すと鉄筋コンクリート製の防御陣地のこと。トーチカの壁には機関銃や大砲を射撃できるような小さな銃眼をあけてあり、敵の砲火に対して耐久力を増すため、構造の部分が地表面より下となっている。(沖縄大生配布資料より引用)

最後に展望台へ。



(左写真：嘉数高台展望台から眺めた基地と街、右写真：佐喜眞美術館展望台から眺めた基地。このすぐ真下には柵がはりめぐらされている)

もし何も知らない人がこの左写真の風景をみたら、それはきれいな島沖縄だなと思うだろうなと思った。なぜなら奥には美しい海と手前には本当に静かな街が広がっている。東京のような高層ビルもない。大きな基地も空港に見えるかもしれない。しかし、右写真の風景はどうだろうか。同じ基地を別角度から写したものである。手前が基地で奥が街。すぐ下をみると柵がはりめぐらされている。基地が中心で沖縄が作られているという強い印象を私は感じた。この2つの写真を比べると、立場によって言い分が変わる沖縄の政治状況をあたかも反映しているかのようだった。

その後、忙しい中沖縄大生に車で送ってもらった後、国際通りへ (本当に感謝!!)。夕食は大人数のため、なかなか意見がまとまらない。結局近くの居酒屋ですませることに。その夜は解散。

沖縄 FW 1 日目 (2011 年 10 月 8 日)



(写真：居酒屋にて)